

平野の景観

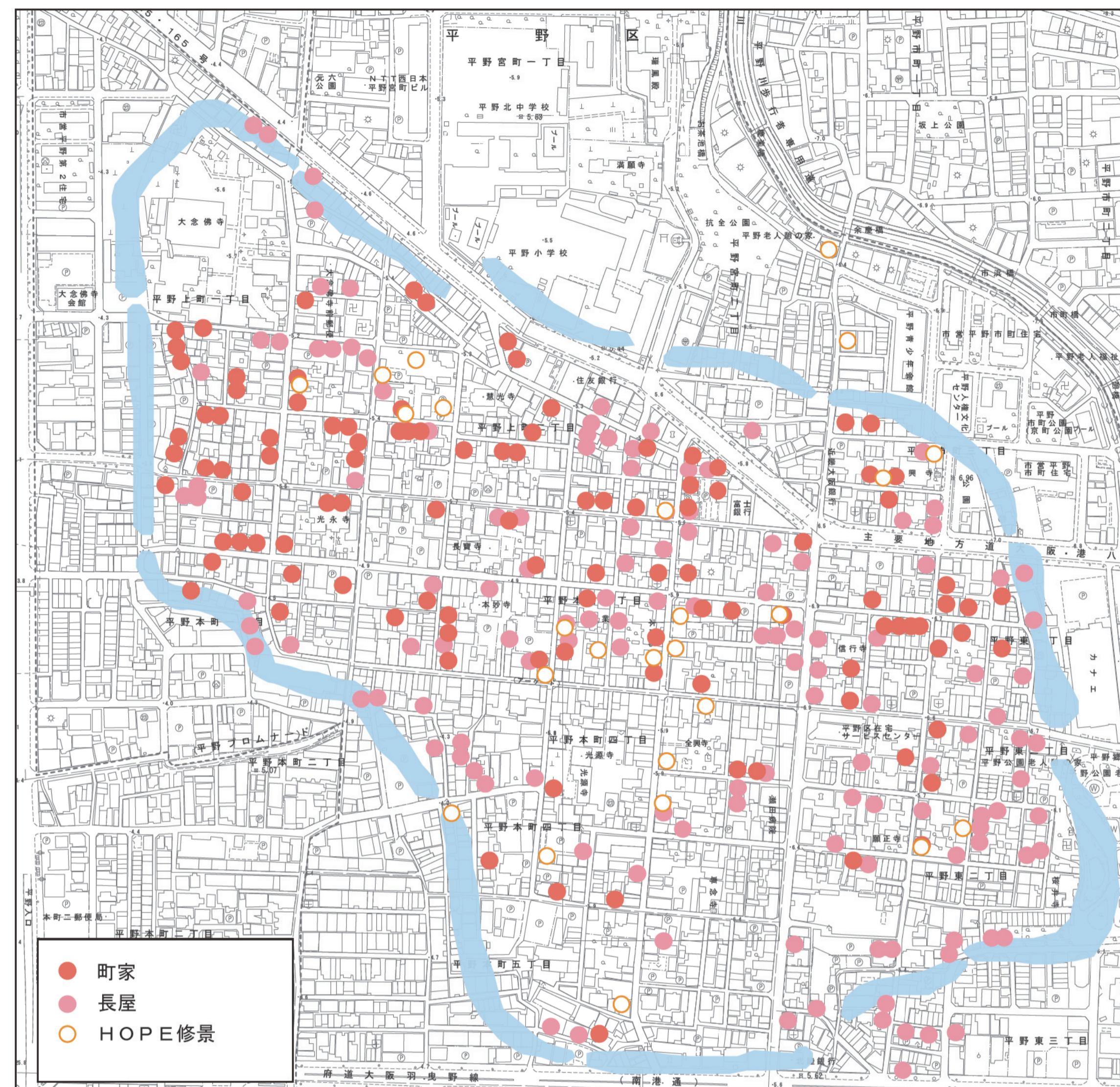
平野地区は中世から環濠自治都市として栄え、現在の市街地内にも町家、寺社、史跡等の歴史都市としての『まちの資源』が存在しています。しかし、近年のマンション建設、駐車場等の増加、ミニ開発の乱立などにより、平野の地域景観に大きな変化が生じてきている現状があります。

そこで、平野のまちの変化を『景観』という切り口から捉えて、まちの将来について考えてみることにしました。

地域の景観を考えていく上では、地域の景観イメージを作り上げている様々な空間、場面などを把握する必要があります。これらは景観資源と呼ばれるもので、景観計画を作り上げていく上での、骨格となりうる重要な役割を担っているものです。

しかし、景観は個人の感じ方に大きく左右されるものでもあります。特に日常的に暮らしている地区においては、景観資源を当たり前存在として、その重要性を見過ごしてしまっている可能性も考えられます。

そこで、平野を初めて訪れるヨソモノの視点、また建築・都市計画を学ぶ学生の視点から、平野の景観資源を探しだし、MAPを作成しました。日頃居住者のみなさまが感じる平野と、私たちの作成したものをくらべてみてください。



町家 長屋
江戸後期から昭和まで、それぞれの時代に影響されて生まれてきた、さまざまなタイプ。いろいろな時代が平野のまちに共存している

史跡
神社・寺、環濠の存在を忍ばせる地蔵。そして、まちに欠かすことのできない祭りのだんじり蔵。どれもが平野郷の歴史とともに歩んできた